

ミツバチのおかげ

今年の春、庭の池で大事に飼っていた鯉が突然亡くなつたそうです。中川さんは「私が病気になって、その身代わりになつてくれた」とサラリとお話してくださいました。そんなふうに生きとし生けるものと向き合っている中川さんの作る蜂蜜は、やはりどこか中川さんの人柄が滲んだ、愛情と力強さに溢れた味がします。今後はますます採蜜量を増やし、商品化してより多くの人に本物の届けるべく頑張っていくそうです。



<左2枚>採蜜見学会。採ったばかりの蜂蜜の試食会も。とにかく濃厚で甘い。柔らかいため、巣の形のまま食べることができます。



↑商品のラベルに使つてゐる絵はご自分で描かれたもの。原画を見せていただきました。

↑ご近所に住む城野さん（左の女性）は、昨年中川さんとお知り合いになり、地元のお店に紹介したり、保育園のお母さんたちが集まるイベントで販売させてもらつたりと、中川さんの蜂蜜を地元で販売するきっかけを作つた方。「最初は私から紹介させてっていう感じでお願いしたんですけど、気づいたら絵は描いてるしラベルは作つてるし箱は作つてるしで、すごくやる気になつてました（笑）。今もちょこちょこ遊びにきて養蜂を見せてもらつたりしています」。ひょんな出会いから、中川さんの蜂蜜は多くの方に知られることになりました。

住宅街なのに森の中！？

～家も環境も自然の恵みいっぱいの家

自然素材工房のお宅訪問



秦野の住宅街の細い路地を進んでいくと、突然、樹々がたくさん繁った一角が現れます。まるでそこだけ森の中のようです。そこに建っているのが、今回ご紹介するK邸です。家の目の前には目印になる大きなしだれ桜の木があり、春には毎年きれいに花を咲かせています。古くから建っているお隣の母屋の雰囲気と合わせて、この場所に合うような家を建てたいという思いから自然素材の家を選びました。もともとあった木々をなるべく残そうと最低限の木しか切らなかつたため、その一帯は自然と調和した空間になっているのです。



以前、仕事の関係で愛川町にお住まいだったKさんは、友人がトレカーサ工事で家を建てたのを見て、ここなら基本的なところを押さえているから大丈夫だらうと思ったそうです。そして、どうせお金を出すならこだわりをもってやっている工務店に建ててもらおうとトレカーサ工事に依頼することにしました。

家は木造の板倉造り(※1)。和歌山県産の杉・桧材を使用し、壁には漆喰が使われ、古民家のような太く存在感のある梁が印象的です。

⑨ -communion with nature-

1階は広いリビングルームとキッチン、水回りと和室。2階はふたつの子供部屋と和室です。男の子ふたりと女の子ふたりの4人のお子さんがいるため、女の子部屋と男の子部屋で部屋を分けています。子供部屋とリビングの吹き抜け部分は壁の上部を開けていて、それぞれの部屋が繋がっています。こうすることで、家族の声が家のどこにいても聴こえ、冬は薪ストーブの熱を、夏は涼風をすべての部屋に届けることができます。しかしどの部屋にいても話し声が筒抜けになってしまふ造りは、じつは大きくなったお子さんにはちょっと不評だそう。「作った時は良かったんですけど、こういう問題が出てくるとは。家作りは難しいですね」とKさん。



樹々に囲まれ、家の風通しもよく、夏は扇風機だけで過ごしています。無垢材の床は柔らかく、夏はベタベタしないし、冬はひやっとした感じがないのが気に入っています。冬の暖房は主に薪ストーブです。リビングの吹き抜け部分に設置された薪ストーブは、これ1台で家全体を暖めってくれます。日ごろから、自家製ピザや焼き芋、ダッチオーブン料理が食卓を賑わし、薪ストーブを十二分に楽しんでいる様子。



奥様が樹木を描かれた油絵↓



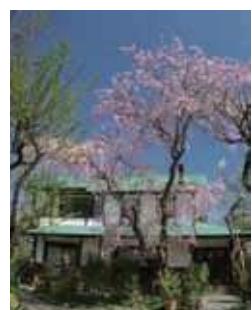
薪ストーブで料理↑

「もともと母屋が昔ながらの家で、今でも薪で風呂を沸かし、10数年前までは五右衛門風呂でした。庭先や栗畠、街路樹の伐採木、知人からの提供、また、山ももっていて手を入れているため、薪に困ることはありません。切った木は使わなければそのままごみになつてもいいなと思ったので、薪ストーブにしたんです」と、Kさん。

オール電化にしたためガス代がなく、薪ストーブと合わせて、光熱費は以前の半分以下になりました。



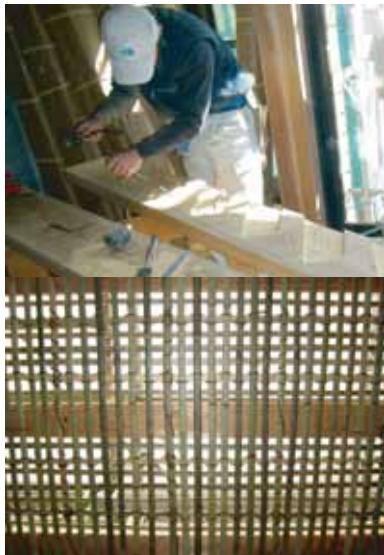
住み始めて丸4年。枯れ葉や桜の花びらですぐに車がダメになってしまふので、カーポートも作りたいと思いつつ「せっかくの森の雰囲気が壊れてしまうので」と悩み中。いつも頭には森のことがあります。秦野の住宅街のはずなのに、気持ちの良い風が吹き、深呼吸したくなる空気が漂っているK邸。家も環境も、自然の恵みいっぱいのお家なのです。



※1板倉造り…トレカーサ工事のHPにて詳しく説明しています。



ふる里の森へ還る自然回帰の家



花鳥風月



春に花、
夏に涼しさ、
秋に風を感じ
冬に月が見えれば、
それ以上何を求めるのでしょうか。
高気密にして自然からの環境を遮断して人工的に
作り出した住環境の結果、
精神的健康、身体的健康に
悪影響を与えたことへの反省。
家族を包み込む家が健康であるために
「自然素材」を使った本物の家創りを思考する中で、

木 竹 炭 紙 土 賀 貝

を原料とする家づくりが始まりました。

『木組みの家』

伝統工法といわれる、手刻み・竹木舞・土壁等、昔ながらの工法でつくる家創り。

◎◎◎詳しくはHPまで!!



『樹の家』

無垢の木だけを使い、漆喰や石や和紙、自然素材で構成した自然に還る家創り。

『板倉づくりの家』

柱と柱の間に3センチの板を落し込む、昔ながらの工法です。板の持つ独特の粘りで、地震の横揺れを吸収する減衰工法。

冬の暖は薪ストーブで。

電気もガスも使わない、エコで自然な暮らし方。

『エコリフォーム』
ライフスタイルや家族構成の変化、設備の老朽化等、時が経つにつれ住まいには様々な問題が起きます。そんな住空間の悩みを解消するのがリフォームです。

イベント情報

セミナーハウス 一般利用公開開始

H25年1月下旬

伝統工法 手刻み国産材住宅 構造見学会

H25年2月上旬

樹の家 ブランド化事業適用住宅 構造見学会 (町田市)

H25年2月中旬

樹の家 ブランド化事業適用住宅 完成見学会 (相模原市)

H25年3月中旬

樹の家 長期優良住宅 完成見学会 (逗子市)

H25年3月中旬

詳しくはHPかお電話にてご確認ください

来体感棟に変身!
新工房が工事のトレークーサー工事の
ロボット工房がエネルギー工房の
感棟に変身!



自然素材工房

株式会社トレカーサ工事 検索
神奈川県愛甲郡愛川町角田253-3

TEL:046-286-1272
<http://www.trecasa.co.jp>

ライムギ

稻わら

バーク堆肥

NO-RA千葉さんが教える



家庭農園のための有機菜園レッスン

次作の出来が変わる! 土壤改良のススメ

有機栽培のポイント

・植物を観察する

(植物を観察してどうしてそうなったのか、どうしてあげることが必要だったか考えてあげること。例えば根を引き抜いて見てみる。根が伸びていなければ、肥料が多くかった?肥料のカリ分が少なかった?など思いを巡らせてみる。)

・計画する

(有機栽培の基本は土づくり。有機物を入れ、分解させて土づくりを進めていくのには時間がかかる。しっかり予定を立てることが必要。)

・土が窒素過多にならないこと

(窒素分が多い牛ふんやトンくん肥料だけを入れ続けていると窒素過多になりがち。窒素を抑えた土にするとおいしい野菜ができる。)

↑のポイントを押さえて

今冬季(12月~3月)何ができる?

分解していない、または分解されにくい有機物を畑にいれて土壤改良する。

★土壤改良のいい所

土中の保肥性、保水性、通気性がよくなる!

未分解の有機物を餌にして微生物が増えたり、

窒素過多を軽減してくれる。

(有機物が分解される際、窒素を吸収してくれるため)

土壤改良の方法を紹介します!

■4~5月に種をまく畑には

12月

- ・バーク堆肥を入れる
…バークはゆっくり分解される有機物のため、繊維がのこり、ふっくらしたいい土になる。

1月

- ・牛ふんや豚ふんなどの堆肥を入れる

■6~7月に種をまく畑には

12月

- ・緑肥(ライムギ)の種をまく
…ライムギの種を播いて成長させる。その畑を4~5月に2~3度浅耕運する。生の緑肥を餌に微生物が増え、いい土になる。

・豆畑の地表にわらを敷く。

…豆の収穫後、畑にすきこむ。

わらの繊維でふっくらした土になる。

NO-RA千葉さんの記事は

①~④ページにあります

リクエスト受付中!

千葉さんに教えてほしい作物の栽培法があれば、トレカーサ工事のHPより「メールでの問い合わせ」でリクエストしてください!



フリーペーパーのご案内

同じ価値観を持った人達に神奈川県のナチュラルな情報を広く伝えたい。
その思いからフリーペーパーを発行することになりました。

■フリーペーパー内容:

~ナチュラルな環境や衣・食・住を伝えるフリーペーパーです。

真剣に環境と向き合いながらものづくりをしている人を紹介します。
そんな本物志向のひとの顔が見える内容になっています。

楽しめて学べて循環型生活が身近に感じるような、エコ生活のお役に立てる情報を提供します。

発行元: 株式会社 トレカーサ工事

自然素材工房は『人と自然の調和を図り建物を通じて社会に貢献すること』を企業使命としてやってまいりました。

それを実現させるため国産木材を使い、化学薬品を使わない自然に還る「循環型の家づくり」に取り組んでいます。

〒243-0301 神奈川県愛甲郡愛川町角田253-3

TEL: 046-286-1272 FAX: 046-286-3452